

衝撃

9月25日は中秋の名月、お月見です。給食にはお団子が出ました。

秋の収穫に感謝し、月見団子や里芋、さつまいも、旬の野菜や果物、ススキなどをお供えして月を眺める習慣です。事務員さんが、給食にススキとエノコログサなどを飾ってくださいました。前日、お彼岸ということで“おはぎ”が振舞われました。もち米の周りをあんこでくるむのが通常ですが、今回は黄な粉をまとい、もちの中にあんこが入ると言うゴージャスバージョン。しかし栄養士さんが悲しそうに言うんです。「おはぎの残菜率が高くて」あんこ好きの私にとっては衝撃。和菓子に限らず和食の時に残菜率が上がるとのこと。和菓子、和食好きの私にとっては衝撃。食育で和食の愛好推進を図らねばなりません。

今週は、音楽祭・合唱コンクール週間でした。音楽祭本番は給食から始まっています。合唱応援メニューです。ハチミツレモンキャンディは疲れた体にクエン酸を、荒れた喉に保湿効果と殺菌力

のあるはちみつを届けます。ハーモニースープは音符に型どられたニンジンと、五線を模したビーフンが!いつも食を通じて生徒を応援してくださる栄養士さん、調理師さんに感謝です。

音楽祭当日、朝7時30分、吹奏楽部や箏曲部の楽器を運ぶトラックが清中に到着しません。業者に電話を入ると手違いで

配車されないという衝撃。トラックを借りるために手分けして、電話を掛けました。ある教員は家族に電話して自家用車を出してもらおう手配を。ある教員はレンタカー屋さんに電話。結局、学校支援本部さんにお手伝いいただき、お知り合いから幌付きのトラックを拝借することができました。そこでは、運転を任せた若手教員が

「運転できません」までもや衝撃!このトラックはマニュアル車だったのです。彼はAT限定免許。ということは、私が運転するしかないのです。楽器は、2往復強を必要とする数。清中に戻り、慌てて詰め込んだ楽器を所沢ミューズまで運搬しました。搬入口に辿り着くと、事務さん、栄養士さん、吹奏楽部、箏曲部、教員、みんなが待ち受けており、あっという間に舞台裏へと運ばれて行きました。この連携に衝撃的感動。総力戦です。2往復目、清中を出る時には10時を過ぎました。道路の渋滞が始まりこれまた衝撃。音楽祭は10時30分からのスタートで冒頭には校長挨拶があります。間に合うのかという不安の連続。ミューズに辿り着いた時には29分。「校長先生早く!!」と舞台まで、前乗りの教員が導いてくれました。無事に挨拶終了。そして合唱という大きな舞台が始まりました。

翌日、事務さんから「朝にハプニングがあったけれど、教職員と生徒、みんなで必死にカバーした。生徒の歌も良かったけど、清瀬中みんなで困難を乗り越えたことに感動した。一つになっていましたよね。」ピンチに対しマニュアルがなくとも清瀬中がオートマチックに立ち向かい乗り越えるという、もはや舞台裏での小劇場が繰り広げられていたのです。

2年C組の自由曲“ヒカリ”の紹介。「同じ歩幅で歩くことができたわけではありませんが、日々成長する僕らの声、その声が重なって生まれる感動、そしてその感動に灯るヒカリに耳を傾けてください。」生徒たちの合唱練習に始まり、給食による応援、運営、ハプニングの回復、それぞれの役割でそれぞれの歩幅で歩んでいましたが、その歩みが重なり今年度の合唱祭が成功できたのです。

清瀬中には『AT』新たな灯火が宿りました。

